

西洋記聞下卷

大西人の聞あよむ姓名御國父母等のよめを以てする

人三身て我名はヨワンバツテイスクリローテのローマのハライル

モ人之 すべてを彼をかくは音もたはくは各を稱する  
こときもヨワンといひシヤことといひキアことといふぬしを以て

似るを志すは餘皆これに倣ふをヨワンといひハライルの後ホルトカルの  
の語は此アことといひハライルの後ヨヨことといふハライルモは  
ローマに隷する地名ありと云

父はヨワン。ニシローテ死して既ニナ子の母はエシヨノ

フ多れ今あつて世よはくはハライルオオ  
父の各と  
モ各と

お似くことといひバツテイスタといふのこはくはけを以て聞あよ

昔エイスの大男子ナ二人の中はヨワンニスといふをまにキリスチヤ  
ニ各を法を以てつては彼等の各を以てつての各は加給することといひ  
ハツテスタといふ名はニシローテといふ姓ことと云

兄弟四人長は女を知りて死す次は兄のピリススと云

次は我是年早一才次弟を立入りて死して

既ニナ子の我知りて天主の法を受けぬは後

月ナ子の師とせしものナ二人  
徳方の学を科多く作  
ナ二人と云ふは其の科は

つて各師を以て云  
ローマにまきてカテドラスにあり

六のオオよ一國の薦挙よりて名ヲナリウスよ

あるれいもサテル夫は彼方教化の主よりて第四号の号あり

ヨナ、リウスは彼方秘法のもよ  
使ふる者を務むる事と云

初奉神の命をうけては出

よ斗ちのしむるをよむしよりてけ出の風俗を訪ひ

まはしそのしむるをよむしよりてトーマスラトルと云ふ

これを昨の命をうけてはツケをよむしよりてエドガ

二人各カルイ一は及つよあつつれや子ワを歴てカナ

アリヤよむりこよてヌアラシスヤの海船一隻つよ

あつてつあよロクソよむれりこれよりてトーマステ

トルコはツケンよあむむき我にけちよあむくあよ

忽又同洋一信にむして初出渡らんとすよむり

しりよむり一のちをよめてけちよむりあむくあむり

トーマステトルコは回門の人  
の名をツケンはすかむら大情の北条シマラト人なツケンと  
いふカレイは小舟を云や子ワカナリヤは西洋海路の名

男子を國命をうけて万里のゆる身を顧まじ

月いあよ及るすこれと女の母己よひ先て女の

兄又年すよはるるくむいむりあむりあむり





を正しくとす。故に彈のめく後のめくあなを  
くらし是にけし去の金銀の三ひあはロクツシよとし人の  
時一亦は獲れあふこと

其法衣の名を問ふはルリチヨと云ふこれと取捨  
の布は裁玉の聲をいづれの方を求けしやと問ふ

これをもルバルのホニテチリして買はしロクツシよとて法

衣せいかぬいふ 其法衣ホルトカルの種はカッパといふ

昔裁俗を製し儼い雨衣を作れり  
を製をアタは分俗はマルカツパといふゆゑは裁玉の  
亦かく異これと名は裁きしてお裁までおタシと云物をとて

左右を固すを大もく地を裁くより之は是よとわたり取原より  
以下を寫位の高下よとてを大の長短を取師の裁玉の  
長くと地を裁くより裁玉侍者してこれとていふてはく  
と云ふ

を河門の人此系よあはしはし裁玉の介りこよ坊の

とてめよやと問ふよ裁玉の介りこよ坊の チイナといふ  
即支那といふ

初は裁法を裁玉すあはしひの **禁**すすは除る

て裁法を裁玉すひこよ坊の裁玉の介りこよ坊の裁玉

裁玉よ使して物を絶へし裁玉すすは坊の

それの中マルカリイタセツ裁玉を裁玉裁玉



とありゆむとするゝ及びて又死したるを使辭  
而後從今よりローマにてもをフランシススサベリウスの  
カスラーリヤの令としてホルトカルの君の師よりいと  
我法の弘通のさめよ東しけ出よ来れりてを再  
ひよりてその西よゆれり時サチヤンよして終りま  
サチン及シイナカシタンの南よを海嶼之と云カニタ反  
廣系こ  
サチ及印香山縣之夏後香山之音也し証あり  
按るよフランシスウスは得よ波羅多伽兒人佛

玄佐とと信和  
源氏より海嶼の  
事をつまふ  
亦及の家をつ  
亦及巴を子  
各鹿私時よ  
ニ入ると云

来新古者といふ者印は之豊後のを形大友左  
衛門督入る宗禰之を使や者「桓田令左佐  
もと及大徳玉亦及の族之天正十一年の宗禰  
うさめよ使してローマよ死す西人懐ませし母子  
一通人の瓶を貯り童子の頂よおを灌く而  
を繪らるゝ図と指示してこれ其後の大石  
の子乃法を交る図こと云但し其後の屋  
形を使等の姓名を問ふよ其姓名いつす





その教も又傳へて又ラントムの説をオムズイブスの  
徒諸國に傳てて其幼敏のものを又その多方のして  
其國にひきかきありてこれを教習し學問に遊  
ぬれ各を本玉と教へ仰て其法を授けし  
これ其後の俚耳に入やすすむるにせむるに  
といふ我々の昔を教の昨るものもまた彼等の言  
乾せし等ときさるゝ利ありぬるも昔は其國に  
生れしを人頼後西よきりて彼の言よ乾はつるよ

申上よ入く始よを教を傳へて書生を  
或されて大西に其方の言を又傳へし  
教の書を讀みし我儒と命ふるを以て  
もと東土の言を傳へぬれ大西の言を以て  
ちしむるも又傳へしを以て

彼方幾世の子を以て其言を傳へて其言を以て  
又幾世にトルカに教するものも其言を以て  
フランシスヤの言を以て其言を以て

そのうち今より西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
アも又これより西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
ゆへにこれより西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
毎層より八の五の音念大砲を架して敵船の赤き  
下をゆい降りも地を驚かすもさかちよなり  
とてゆい降りも三ヶ所の新よりきよめり  
コリスヤより西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
こよめりも三ヶ所の新よりきよめり

地より西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
コリスヤより西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
こよめりも三ヶ所の新よりきよめり  
ゆへにこれより西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
毎層より八の五の音念大砲を架して敵船の赤き  
下をゆい降りも地を驚かすもさかちよなり  
とてゆい降りも三ヶ所の新よりきよめり  
コリスヤより西の海に三ヶ所をとも最とせアケル  
こよめりも三ヶ所の新よりきよめり

北より南へ約六千方里科トシテ其の度地は  
ト書カレタリ及ツト云○彼方火蓋の始りト云  
トゾヨウのガツバルカイこの人始り作らるる地タマスラスと  
云云又おぼしき一全ルパイナムの始り今を去りすは二  
千余年ありといふトヨウ又エトヨウと云又一海は如種  
ト云ヤ一海はトガツバルカイニステスラス  
ト云各傳説ありスコレイナムはト云鏡也

ヨラニト人ニ鉄炮の始り同のよき始りといふ  
こと

イスパニヤフランスヤの如き海外の地を併せりくもを用  
ましむるを同よなきなりノーワイスガヤの如きハ地を國  
を治りぬるありと云ハトコトもむらう震りてお争ひ  
弱きに強きハ肉とありて人の屍をお念ひするも  
イスパニヤ人ハこの地のよ放るる爰はありてを衣念  
の業をおしつゝ然の用を造りてしらひくはテラ  
スの教をいづくすけ方の人始りてを其の地をいづく  
お候ひ後一つおよそ地をぬれくを其の右の地

めしゆをすけひぬロクソのぬきも俗学福新して  
ありし樹皮をゆくあなを遠くそ人又禽獣はを  
くハイスンヤ人なまのりま及びてそ生養ひたを  
のみよつて我教をききてもきくぬ玉人舉りて本  
玉の内属をききしを我教を或人信てお去り万  
甲しては玉を信じて我教を又てつる  
棄てしよりと云本玉の君外海の念とてま  
そ生を安し死してそ苦をまぬれぬは我テス

の思は頼みすくあるしして我を結ぶ思を  
やがまきは余コアマカワのぬきを地を信て海船  
互市のぬきを便するはすくそ生を便し奪ひ  
かといふぬきよにあすといふノロイスンヤヒクミ等國各コワ  
はイニテヤの地名アマカワ及阿媽港廣東よつて等前は  
我國東よ僻りて最かきまや我よ大禁つる  
をハ凡エラロハ地方の人よつてそそ生を  
今そそ生をそめぬ打はよそ来りぬは

すといふはまはけ玉の糸は僻くはかりしものなりといふ  
りあるはくは万玉の中を土壌厚く大なるは先  
ターリヤのトルカは多くあるはこれとそ人のぬき會獄  
よといふはきさかしてエウ只徳國の人のぬき我教  
よよはあはらしてよは又ターリヤトルカは異ある  
しす我ローマンのぬきは方僅は十八里も及ぶはこれ  
我なるはつはるは西南諸國もひ敬するしは  
るはこれを頭の小しきあるは四新のよはまた

とて一試は物を初るはそ始るは古からすといはる  
天地の氣歳日の運系物の生ことくは東方より  
始すといはるは第一の東方は國すはの与出の  
ありは里のふはの地もはつはるは与出の  
すは我又多言ふ其すはふはつはるは我法  
今にけははりはるはと論す。

いふはつはるは を懐みせしは丹子と豊臣大將のふはと考へて  
テイラコは そ我法を禁せしは又いふ  
云テイラコとは後次は多くの人を殺すといは暴悪の人を  
稀するといふ

今代は我を我法を禁せしむるに非ざらん人我  
教を以て其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
よはるし其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
のまひけしよ一十音半余のすた地といふ  
人の玉候一奪ひしよさや吾らラト人の玉候  
むよしよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
のまひけしよ一十音半余のすた地といふ  
これ其法の黒箱と云程下は詳と  
地を侵しよを奪ひしよせしよ絶すし今我

保せしよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
うまのそ教よ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
フランスヤのまひけしよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
そのまひけしよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
かまひけしよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
を其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
こよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ  
チイナスイヤムのまひけしよ其法を尊ぶる者(sonnet)と告げしよ

と云

あるは凡國を論するは先古の小人を方の徳をよ  
かんと云ふは福の似たり又玉を得るもの教は  
かすき人よかるといふ言も親をよ似たり  
かんと云ふ教とす亦いふをいふ天を生し  
地を生し万物を生する所の大神大父といふ我は父  
のつて愛せられたる我は君のつて敬せられたるを  
不孝不忠ともいふたやそ大君大父よつたり

先古の教をあるとすといふものあることいふ礼は孝  
に上帝よつたりものれもよく徳候より下敬て天を祀  
るものつたりといふ鼻のふ徳もさつたり亦をり  
敬てあるれは臣の君をいふ天と一子の父をいふ天  
と一妻の夫をいふ天とに似れは君をいふ天を  
をそ天よ信る事あり又は仕て存るもの天よ  
はつたりと夫は仕て存るもの天よ信る事あり  
之類のたを除くの外入天よ信るものたはつたり



我の方圓の説を試す亦を能く傳ふ人の爲に  
之亦謂竟齊以集聖にお傳ふたるも異端  
の言よもして、老仙の微言を頼むれば難ぶ  
を我道の爲に古より付る仙氏の言を盛す  
宗をたて流をもちしを徒各我教を信ひ天  
下の人彼を悔せられこれより三つ異教  
を以て懐くはよとあるれを將てこれ  
稱すよを従ひれはよも傳ふの言を守り

と云ふては、いかに

ことよ書くむ始本原命せよまは彼告誡あり

とも大要いふと、同く昔フラスミスアセイリウス始て

けちよ書きて我法こよりわよ七十余のタイカ

アサメの付よむく秘く我徒を懸け逐るるタイカアサ  
メはこよ

いふ所の大閣極之をよみ、秀吉九命を祀せられ付るも、縁は信ず  
バアをを逐むるかよをいふて

これよ信じて我法の師徒を誅せよめり

終よエウロハ諸島の人はよ守りては、いかに

あけり先師ホシテヘキスマキスイムス。イノセシテウス。ウシ

テイシムス ホシテヘキスマキスイムス。イノセシテウス。ウシ

及てよ土世と云ふれ。モオ一上と号といふれ。し

モ及十のムス。及せしといふ

汝より汝へ勸きし。いと志む。前くして十の。あはれ。汝り

今のホシテヘキスマキス。イムス。キレイメニス。ウツラテイシムス。キレイ

各ウツラテイシムス。と及土世といふれ。ウツラ及ウツラテイシ。及十の。及

世といふれ。し

今も。今も。今も。禁。田。け。の。み。よ。つ。ん。も。天。子。の。使。こ。よ

来。る。ス。イ。ヤ。ム。の。ぬ。さ。も。我。法。を。林。家。す。と。し。も。是。又。そ

林。家。を。除。け。り。今。よ。及。て。及。チ。イ。ナ。ス。イ。ヤ。ム。す。て。よ。わ。の。ぬ

と。も。ヤ。ア。バ。こ。ニ。ヤ。も。ま。あ。め。ッ。コ。ケ。リ。ウ。ス。を。ち。あ。り。て

告。新。の。ふ。も。て。次。よ。カ。ル。テ。ナ。ア。ル。を。ス。レ。シ。ウ。ス。と。を

も。ぬ。を。依。め。て。我。法。を。あ。て。ひ。ふ。と。よ。が。あ。は。れ。の。

と。ア。ヤ。ア。ハ。シ。ヤ。ハ。り。か。こ。メ。ツ。ル。ナ。リ。ウ。ス。及。あ。よ。は。せ。り

カ。ル。ツ。ナ。ア。ル。上。よ。又。つ。う。り。ス。レ。シ。ウ。ス。及。あ。よ。は。せ。り

と。ア。ヤ。ア。ハ。シ。ヤ。ハ。り。か。こ。メ。ツ。ル。ナ。リ。ウ。ス。及。あ。よ。は。せ。り

カ。ル。ツ。ナ。ア。ル。上。よ。又。つ。う。り。ス。レ。シ。ウ。ス。及。あ。よ。は。せ。り

と。ア。ヤ。ア。ハ。シ。ヤ。ハ。り。か。こ。メ。ツ。ル。ナ。リ。ウ。ス。及。あ。よ。は。せ。り





方の人を殺し去る或は殺さぬ或は神還るべし  
一人の國命を救ふべし我孤身一人は  
此よりおぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
もつとあはし申すは流りぬ又存玉の後の  
アサ一受あへて告げし可し一恩裁のほ  
るを以て信使をもちて恩を謝し我法  
おたかよびてしるはよはし先を禁を  
しるのよびてしるはよはし先を禁を

る(おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
る(おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
る(おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
る(おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
る(おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは  
おぼゆるはくはの彼を救ふるのみは

治る天地萬物にふよま宰するものなりと

よのしすまを宰名つけくテウスといふテウスは神の御名なり

テウス初に天地萬物を造りしとすよのちて其の

人を造りしを為す諸天の上よのライツを造りしライツは清浄と云ふ

天使も天を掌といふ  
仙氏のいふも後世世界のぬー  
至是至教の天使を造り

天使ルス及仙氏ともいふ  
ホルトカルの神よ天使といふ也

てタマセイナと云く  
タマセイナと云ふ  
清浄と云ふ也

いひそ右の第一骨を造りて女を造りて又ワといふ

即これ人の始に彼男女を造りて夫婦とありテリアリ

の地よありしめテリアリと云ふは地と云く餘の地をいふ

と云ふ心は凡人物のアニマよこの品をアニマは魂と云ふ

のぬまの生のみ榮花のまを榮花のまをいふ禽獣のぬまの

をいふ飛鳥のこ有けニツのおいぬすたは滅ぬれにアニマも滅

ひぬてれを始り終りしを人のこをまの最靈

してそアニマ大地と云ふ滅ひす人の靈魂なりて其

これを始り終りしをこをまの最靈と云ふ

アタシエワよ戒りよしくしてマサシを念ぶるを

ていよのこれを念ぶる會然の中は墮てるうく

て昔苦をよぬりもりあじうあかりきマサシは果の  
各ありと

云仙氏のいふも地録の取次も昔といふ生老病死の昔と云 ことよルウチヘルといひ

アセルス自らを智あるよちうて縁してテウスとい

スこれを信せしアセルスすふくくテウスこれを

よみくいこのを信じてまよみせし事とこと

くく皆下界よ進下していこべルノお居るまじ

ルウチヘルはアセルスの名にイニヘルはイニルウチヘルを掌とのみイニ  
ことよ大塔地獄とすといふ

ヘルノよ昔しすむを信じてテリアリよ飛りま

エワをすめてマサシを念りしアタシ又エワをすめ

てこれをくらふかくアタシとエワとなし戒を破り

くテリアリをぬえれてはれはも縁人向は墮り

そ昔をすまぬれすことよあわてアタシエワコシチリサシ

の心を弁してコシチリサシと云  
はは懺悔といふ うくそ花を射す

テウスそ花の大しき身は躰ゆりのあなま

きざりしめて自ら人の男と生れて二人代りて  
そを腹を暖む心もを誓約す二人はつゝある大いそ  
業の事をしむちて終りてハライワはあたりアを  
去り二千余のりして 今を去り四年ノエといふ者  
そ男子三人を父母子ぬすて八人のみテウス取  
りてノエは教つて船造りし百廿年りして船取れ  
とこしりくたよ船よ載ししこよ大兩取らり

軍中大水山をうねてち地の人おこもく溺れはすま  
り父子夫婦のみ死をまぬれを船程今アニアの山頭  
現存一ヌをぬく漂来々螺殼の教エウ只地方所在  
の山岳の上よつゝもの程をノエを去り一千余年  
今を去り二千余年 テウスエテヨウのスィナイは

モイセスといふものよマレタメントを授て世の人よア  
ジテヨは玉の名あははすスィ  
ナイは山の名モイセスは人の名マレタメントは  
神の言ハシエケツプトの君を教を伝せり終りモイセスを殺

とす エテツグと云ふ玉の名ヲラトの流る幸ツグと云はる  
伏す所つむひらるあす

こねと隠ひて玉を避くよの殺あ人そ君自の兵せ

ひきおろくマシアロムと逐る海中忽は潮るれ

路るそこのれ去る潮又忽は湧きて逐るよの皆溺

れ死せ マシアロムはマシ及也アロムはまづブルウトといふこと  
ふ血の命としてを海にこく血とるれりと云

後又西紅海と翻す モイセスを去る凡一千八百年

今と云ふのニよせる 金ののりといふ **ゴデヨフの國**ナサレツよサントス。

マリヤと云聖女をへーテラムの君タアヒツトの後 ナサレツ  
地名

後伏未得サントスといふ事祐と云余等これよ偽つてマリヤは偽  
よ馮利聖を伏すといふ一テレアムは地名之タヒツトハを君の名は伏  
と云ふ事

ナサレムの時夢よアンセルス攻めてテウスの命を告げテウ

スそ子と成て名をエイズスキリストスといふ一ナサレトス

ヨセフとしてこれ父と一ベイテレウシよ産くめてエチ

ツプトよりむくのすしといふ事を アンセルスかよえり  
エイズスキリストス漢ハ

耶と殺と伏す我俗よセスといひ一は伏は又善將と記せり  
サントスヨセフ人の名こへイテレウシは地の名は伏未得  
エヂツチト  
と云ふ事 こよあるくヨセウをともをひナサレツを去り

ヘイテレウこの駄よあつてつねよ男女のなよつあつて  
男の子をを腕中よ養ひ多しおよようて、アノスス

キリストスと名く  
エノカ生れしは紀元四年と云ふ事  
七十九年今のエリサの救世と云ふ事

不期人皇十代崇神天皇三十二年辛酉の年  
原の平帝の始元年にあたり  
アラヒアノタルヨ

カバエ玉の君アノスス生れし救よあつて容星現  
れしを觀て聖人をて生れしをさうてあめ

玉をかくそ亦をさし  
アラヒヤは今アビヤの地方あり  
カバエ玉はそ亦をさし

伏未詳  
エ玉の君はまよひつひてなよエテヨフの

エローテスよ見へてけりを問エローテスよめを

あつて人を求めわら必我よ告知す

約すをを去て行経ナ音ヘイテレウこの御彼星かし

このよつらり終よを譲りてアノススを釋す

をらぬアノセルスをして降りてエ玉君を戒むるアノ

ススのよを去りてエテヨフの君よ告りてくると

云これ彼はよし力よあつてマリアつねよ

去てエテヨフの君エ玉の君のき

を殺せしむるを以て其の年五月中の初日生れて二  
 ありの教方を索てヘイテンゴンは殺すをひのりて後  
 そ君死すアセルスス改りてマリヤを告くナサレムは  
 仰しむイスス生れて瑞應多く知りて三つて天  
 主のふと祢して三つて始めてエルーガレムは説法す  
 あり之を教せしめし者八千人 エルーガレムはルテエフの地  
各こと云譯訳未詳  
 テヨウの君セイサルこれをよみてて其をアガを断りてカ  
 ワーリエよありて 磔に殺す セルワーリエは山の名イタヤの  
磔はアルワーリヨと云たは譯訳

未詳多儀磔をクルスよかけしと云クルスは海よ翻して十字架といふ  
 のこと又黄金を以て其像を造りしをイマセことふをこれイススといふ  
 といふや時よまらひしを女人の腹中其を面を拭ひて其を面の腹中  
 ようりしは始りといふイスス其像を死しは羽像の十字架上よ  
 磔殺りて其を死して後三つて其像生し其母マリヤ  
 よ死してありこのよ法を説き四つて其は天上よりこれ  
 テウス神の胎を胎のめく人と生れアガエワリたのよを飛  
 びふりていく程ありてヨテヨフの君を歎アルテウス  
 のよの滅し五中の人民城郭をこしく火のよの  
 やりてすかえら今トルカの地よ其荒墟のみ送り

カルテウスは或い地名或は  
人名未詳譯文不詳

ユイズス上天の時をのみ二十之

を母マリアは子三入りて上天せり

此後の念珠三つと  
云珠粒三つと云るは

ユイズスりの教より  
ユイズスにマリアの教よりあるは  
ユイズスが牙子七十

二人を仲上の上豆何色サントスベートルスのサントスバウス二人

二人の中  
ユルーサレンを去りてイタリヤの地ローマンを去り

これをも又を君セーガルアウグストスにあり殺さるを

後には余のころしてローマの君ユースタチウス痲疾

を患ふ良医皆多くの心見を殺しを血に浴せ

いふに君の疾の爲よ人を殺すと思ひ

まといひてを言を我ひをけ我二神人を夢に

シルカステルといふ師ウラウラはをくしは乾て死しは

汝の疾癒しと告ぐも君こつ々を人を

あつは爰又死し一夢二神人の像彼師の言を

いれよふらちペートルスのハウルスに秘ペートルスのローマ

の爲よこりされしを法をうけけ

この二十二年に於ては皆玉珠をまぬれす三十四世

ししてシルポステルよむるを君の請ふはよくて聖水  
をこめてを頂又灌くよき疾をらむは痛ぬ後  
の討めず後水の後軌をこれエイスス懸されし時の血をこめて  
一切の邪鬼を後除のふことしよは從そむ仙氏灌頂の法は  
なほしきぬソラウテといふハエスルを君ちちり  
隠れ居し山の名と云  
收ひてやくてそを君を避けて三つ々  
フシダントをすましくサントス。ペートルスのエツケレイヤを建つ  
フシダント及こまよふ礎之サントス。ペートルスのエツケレイヤといふ  
はよは精舎の名ありぬし。後終テンプルスといふハことよ奇  
と云らぬし。イタリアノ行はぬ  
カイルキといふことしよ

このいローマシ。スチイリヤ。子ホリス。ウルビイナ。ホイニヤ  
ペニテラ。アタアトス。オンテヒイテウス等。の地を説く

セツの地名  
後沃事也  
玉をこまを教一日里ありてコースタレナイ

の地は移り居たり今トルカ玉教これよりけ方エウハ

地方の國君宰臣を始くも信せずといふものあり

凡ローマこの地四面皆石を築て基とすしを圍十八

里エツケレイヤ始く建しよりけ地いまは火災をり

るし世よ金銀珠玉をりて是皆蔵せり天下の

寺觀以す(ま)よ(う)けし(て)こ(ゝ)は(裏)り(在)る(の)の

凡七十餘系人 (を)地(ハ)ツ(の)山(を)と(云)ラ(シ)ト(人)の(後)も(及)

ローマ(の)周(圍)は(里)許(を)地(勢)險(す)で

七(山)あり(紀)樓(閣)教(堂)を(堅)お(映)し(い)ふ(る)る(る)は(觀)心(を)

徒(を)除(く)外(に)多(く)及(工)匠(を)巧(妙)天(下)双(り)諸(王)の(又)

來(り)て(學)ぶ(者)多(し)と(云)ふ(る)シ(ル)カ(ス)テ(ル)は(地)を(開)

き(し)ら(う)今(の)キ(レ)イ(メ)ン(ス)も(也)と(云)二(百)四(十)余(世)凡

一千二百四十余年(を)教(化)し(ま)ね(継)て(こ)れ(を)終(へ

バ(ア)甲(か)と(い)ひ(ま)し(こ)れ(を)ホ(ン)テ(キ)ス(マ)キ(ス)イ(ム)ス(と)云(ラ)シ(ト

人(及)を(生)ま(し)り(又)と(い)ふ(ア)ハ(の)特(長)を(終)め(り)し(今)の(本

生(及)シ(ル)カ(ス)テ(ル)よ(り)二(百)四(十)余(世)と(い)ひ(入)三(世)と(云)こ(れ)ホ(ン)テ(キ  
ス(マ)キ(ス)の(思)を(と)て(よ)り(及)十(世)の(終)り(の)迄

を(徒)各(位)号(を)

こ(と)と(号)は(ム)ス(テ)ホ(ン)テ(キ)ス(す)か(ら)こ(れ)教(化)の(主)也(を)

次(は)カ(ル)テ(ナ)ア(リ)ス(け)位(は)何(る)者(七)十(二)人 (こ)れ(エ)イ(ズ)ス(七)十

二(牙)子(を)準(す)す(を)

パ(カ)の(席)を(つ)つ(め)り(及)七(十)二(人)の(中)を(撰)び(て)各(を)名(を)號(す)

と(す)こ(れ)を(封)し(エ)イ(ス)ス(の)像(前)を(ひ)き(ま)り(て)を(名)

を(せ)り(教)多(く)付(け)を(そ)し(そ)人(と)す(と)い(ふ)を(次)は(エ)イ(イ

ス(コ)プ(ア)ス(を)次(は)カ(チ)ル(ド)ス(を)次(は)リ(ア)ヤ(コ)ス(を)次(は)ス(フ

テ(ア)コ(ノ)ス(を)次(は)エ(キ)ツ(ル)チ(イ)ス(タ)を(次)は(ア)コ(ー)リ(カ)ス(を)

次はシステアリスを改はシキトラスこれより以下を  
職名の名号程多しをエビスコプスより以下を教  
皆定するも及のハアテシ  
イルマコをいふ及を位号及のハエウロのこを  
父をバアアレといひ母をマアテシといひ兄弟をイルマコ  
と云ふれ我たつとふもの及バアテシといひ我を  
一守にそのを及イルマコといひ其のけしを教の  
師友を稱してバアテシイルマコ等の稱は及ける也

凡一世界の由もして各をころとふ所の教法をを

宗ししものつよエツよは守す一ツはキリストヤシ  
これエイス  
スの法に我は

キリシタト云は  
カルトカノ所

ニツよ及ハイデシヌこれにビシ

テイラト云は法を聞しは宗及仏を多くをまよつよと  
といひてを教とする所はつまひつうあひ

エツよマアブメタシ  
これ保よ回し教と  
ふものを云ふ エウロハ地方

よしてなす。所及皆是キリストヤシよして又各を

宗派を我らけ傳へし所はカーリクスの派をキリ

ステヤシより せて 別よ一法をころとふものをよく

マコセスといふ これを教の異端ことと云 ルテールスのアルリヨのカルヒノ

マコチタの教等は是マコセスといふマラシテヤよと云す

而反ルテールスすふら 是のルテールス人の名也 オルト

カルの流よりルテロと云ふもの これキリストヤシとして及よあれを宗と云うマラシト人の流を

マコチタといふ祖師流をいふを教外の宗と云ふ

アジヤ地方より マコチタの教といふもの 及よこれ

を給して マアゴメタシといふ アフリカ地方トルカのなると云ふも

只地方ムスコヒヤを俗モコルのぬーといふは是もマアゴメタシ

コンフウニスといひ これ儒者自派の事ことと云彼教及天地系

物につくありありあり 此は是テウス造り

其徒を給して アテイスマスといふ これ儒者のよこ

これけちよおし 周孔の及こといふもの 即これ

といふ

捕らふ西人を法ととも 亦意徒法隨辨す とも

たす その といふ たを といふ もの ぬき ハ 辨

セ その ぬき ハ ぬき ハ ぬき ハ ぬき ハ テウス

とよみのほよ翻して天主とてこれ彼我声音  
お通すよとねるもたといエイブス認して 耶蘇  
とするらぬし 爰字よりとよむかんの得字を  
假りくそあふ音をくらせのふそを爰書は  
そして得字のよつらよつらに記す明季の諸儒  
利瑪竇初より天主の字を借し用ひてを爰  
我を認しつらよつらを所會して認すも  
上帝これことら諸儒を改めしむしてを非

を免しすしテウス認して天主といふすも  
一飛天の主宰絶といへり上帝なるはエイブ  
ス認して 耶蘇と云 耶蘇又ハ我をいふ  
けり我をいふは日神の字をいふ  
諸儒をいふはよつらに靈貴と云ふされよつて  
そのめ来これことら後のぬし 經といふも上帝

の後のぬらぬら書とよむの自ら志ぬる  
るね及今我を論するもいふも 馬教  
法の字梵典よせしむるは我をいふ

志ねる可くは 天正教法の存及 今西今の候を

まゝよ義徳テウスといひ反けは能造之をいふ

ふへたも天地万物を教造れる者をさす

天地万物自くるるものあり必ずしを造る者

をといふ該のぬきこしを彼のぬきこしを

テウス又何のいふはよきと天地のまじり

時を生れぬへテウスをいふ自生れぬ

もるもの天地の入り自らあること又天地

成るに時先なるのいふ又天堂を造るの候天

地をいふに生れしと斯人すよは右意のぬき

し心はす凡を天地万物のいふよう天堂

地獄の候よものことばこれ仏身の候よきと

を候をいふものあるは是又ことごとく論并

まゝのぬきこし まゝのライツを造るといふは幼初の天地

天宮とあると云ぬくフセルスの候反光者天人のいふ

又種米を食ひて男女のをさすれといふは似る



は諸軍けみき習せし事の如くはしは徳の来り  
而の螺殻の形猶今もるしし流の如きテラス  
祜しきしつがむくまは人物を生し善い大公の  
父王との君といふはなをを人として皆ことく  
吾がしめがむくしを教よまむくまはむく  
らむくまはむくし世界の人として皆純潔也  
しむくまはむくまはむくまはむくまはむくまは  
ことく教むむくまはむくまはむくまはむくまは

らむくまはむくまはむくまはむくまはむくまは  
ことく教むむくまはむくまはむくまはむくまは  
らむくまはむくまはむくまはむくまはむくまは  
ことく教むむくまはむくまはむくまはむくまは  
らむくまはむくまはむくまはむくまはむくまは  
ことく教むむくまはむくまはむくまはむくまは  
らむくまはむくまはむくまはむくまはむくまは  
ことく教むむくまはむくまはむくまはむくまは  
らむくまはむくまはむくまはむくまはむくまは  
ことく教むむくまはむくまはむくまはむくまは

今を況て同字は我教はの主より始く凡を徒牙  
らるるものもなきに似たりと云ふは極く其の事  
を以て他者も其の令しとて一書の外は他犯の事  
ありあけ及ぬ夫婦お祈りするに必を邪淫より  
世間父ありてを生母の如くを子とてしむる子  
ありてを生母の如く父とて怨むるを母を母と  
する者にお愛しを母を異とするものにおよ  
む父も兄弟相和らるるを以て他犯の事なり

この事をして禁じしはきこむに及ぶる業  
彼方徳玉戦乱の事なきは皆是を別後  
よすれり云を流教の事よあるも又あるは  
下しエイス改りしは和符と瑞意を自らテ  
と給せしといふの教釈迦文生れし符と瑞意と  
現し目し給しと云申夫といひしもの如くを  
殺せしめし及ぶ殊生してを母と見えしとい  
の教小器量賊せられ木を身と母と見えし

以て標とあす大羅をえ血をとらて今とせしと  
いひしものめくニルコステル聖女を以て玉君の頂よ  
脩し及ち標天王四大海水を以てその太子の頂よ  
きしものめくその君ローマを以て今と精舎を建し  
といふは辨し望遊園地作園を施入して傍伽藍  
庵とあすしものめくすくその所の後者然しといひく  
遊園すしものめくとも大約を教の由て来り西天  
浮図の頂よその陰りよその紐標を以て輜以て洗鏡

ふりしひしよ又我を熟す即今を説よすて  
ウラント鏤板の地圖は撰りよそのテウス路生るは  
此テヨウのみき及西印度の地方を相去りしを  
又そ後よアイススルに生れたるは前ヨテヨウのみテウ  
スの教りしを以て其地はこころ皆仏教を以て  
信したるしよ及西天浮図の頂よ地方は  
それしよアイススル法の先よ今アイススル法を  
すくよ造像を受戒りし諸頂を補給を念

珠を三堂地獄輪廻報應の鏡の如く仁氏の言  
よお似すと云ふる甚法陋の事あるは  
日日の備るる事なくす明季の人を玉の疵  
及を福せしよ天よの教法其一二は后れ我玉嚴  
よも教を林おせられり過防も及らぬ幾を知  
ものよつと心よつとれ只是をみくす心なき  
妻を以て夫を治む時の権宜よ出ぬれも虎  
をすめ狼を駈り又を畏るるも及らぬ

白石先生羅媽人と問對ありし事  
也こそ久米寛異言の機を以て問對を基と  
せられは乃ち由し書え原奉るる事論を以  
るは白石葉書といふものあり人のあり  
もや先生生涯の著述を次男一はくもの  
ときくされし中二に開ハ紙のみよ書  
裁せりて羅媽顔状といふ一冊を是ハ羅  
媽人のよたつ書物やその物を因りて其時の



